



子牛は寒さが苦手！

平均気温が氷点下となる冬季には**胎子死率が有意に増加**する、との報告があります。これは、**寒冷状況の低体温で新生子の死亡**が増えることが考えられています。

哺育牛は、「体重当たりの体表面積が少ない」「第一胃が未発達で発熱量が少ない」ため、寒冷期には低体温になりやすいのです。

哺育牛の**適温域は13~25℃**であり、気温が**13℃未満で「寒さ」を感じ、5℃未満になると発育に影響**が出てきます。

中央家畜市場管内の月別平均気温では、**10月から4月までは13℃を下回る**ため、**防寒対策が必要**です（春先も油断せずに防寒対策を続けましょう）。

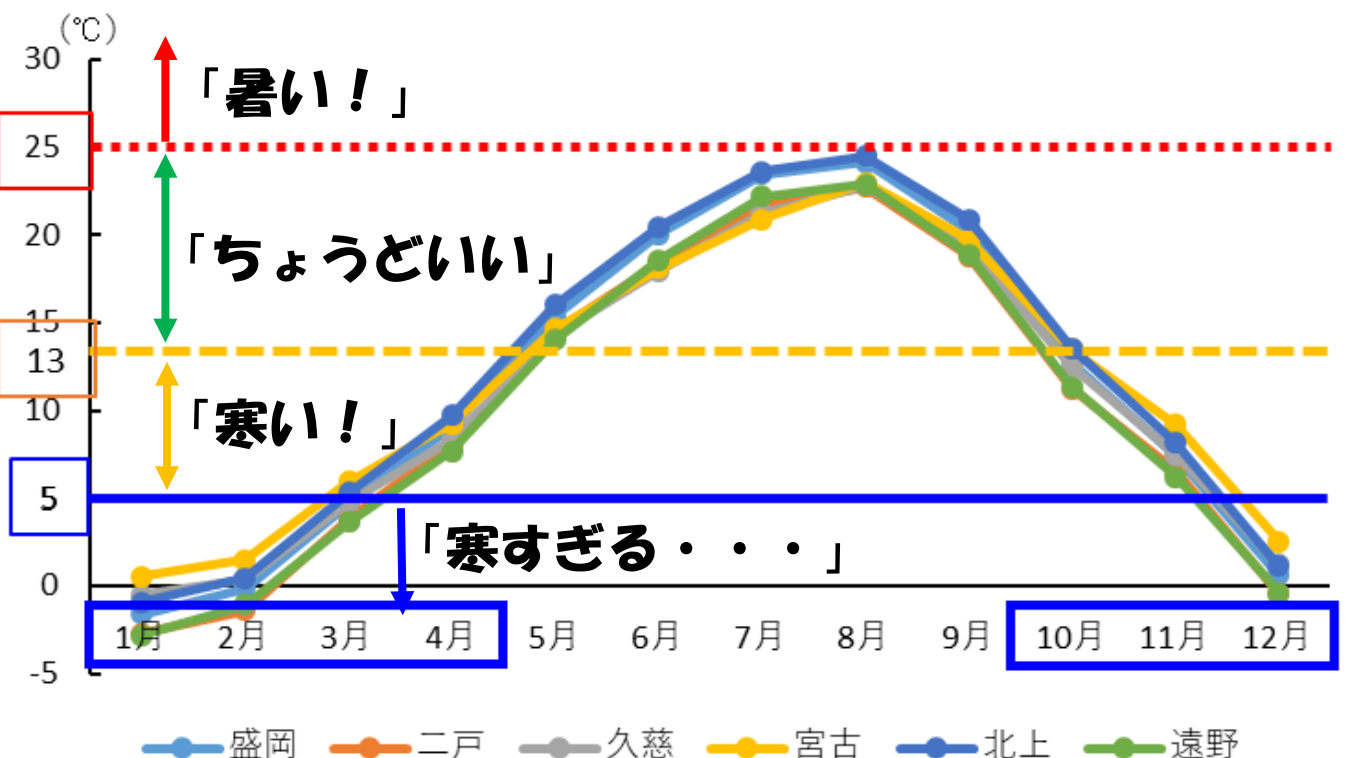


図1 月別平均気温の推移（2020～2022年の月平均を集計）

牛舎寒冷対策の一例

子牛が寒さに負けないよう対策をしましょう。

- ① **スターター給与**で栄養充足、② **腹冷え防止にお湯の給与**、③ **カーフジャケット**等で暖かく、④ **コンパネ**等で**すきま風防止**、⑤ **たっぷりの敷料**で**乾いた寝床**を用意！

ネックウォーマーとカーフジャケットで保温しよう
(ヒーター使用も○)

コンパネ等ですきま風を防ぐ
(でも換気は忘れずに！)

新鮮な水(できればお湯)でスターターをしっかりと食べさせよう！

たっぷりの敷料と牛床マットで下から暖かく！
(濡れずに乾いた寝床！)



《子牛を大きく育てよう!》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～

マニュアルのダウンロードはこちら→



○ 自然哺乳と人工哺乳について

自然哺乳の注意点

(1) 乳量

乳量は、産次・体格・栄養状態により変わります。**分娩直後が最大で次第に減少**します。**初産や高齢牛は乳量が低**くなりがちです。

子牛に元気がない、乳頭への吸い付きが多い場合、**乳量不足**が考えられます。**人工哺乳**で不足分を補いましょう。

(2) 乳質

母牛自身が栄養不足の場合、消化しにくい母乳が作られ、**子牛が下痢**になりがちです。**分娩前後に増飼**いをして良質な母乳を作れるようにしましょう。

(3) 栄養

子牛が大きくなると栄養が必要になりますが、乳量は減っていき、**母乳だけでは栄養が不足**します。**スターター**を摂取させ**栄養を補給**しましょう。

人工哺乳のポイント

(1) ミルク調製

ミルクの濃度が薄いと上手く消化できなくなるため、必ず**製品の説明書き**にあるおりの**量**で**希釈**しましょう。

また飲むときに母乳に近い温度になるよう**少し高めの温度**でミルクを溶かしましょう。

(2) ミルク給与

子牛がミルクを飲むときの**高さ**は、**母牛の乳房の位置**が**理想**です。飲ませるときは必ず乳首を使います。

また哺乳瓶や乳首などの哺育器具はしっかり**洗浄・消毒**しましょう。



自然な哺乳が理想です。人工哺乳はこの高さを意識しましょう。